

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第21号

発行 / 大阪大学医学部附属病院広報委員会 (総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

住所 / 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15 TEL / 06-6879-5021

日本医療機能評価機構の最新基準 (Ver.5.0) を達成

「安全で質の高い医療」認定

阪大病院が安全で質の高い医療を患者さまに提供していること、財団法人の日本医療機能評価機構から認定されました。職員一同この結果に満足することなく、患者さまのための「最高の病院」を目指して努力していきたいと考えています。

カンファレンスに高い評価

多職種による検討会で治療方針決定

特筆すべき看護部の機能

理念、基本方針が徹底、能力向上図る

同機構は第三者的な立場で、患者さまの視点に立ち、医療機関のさまざまな機能を評価しています。阪大病院は5年前にも評価基準を達成しているとの認定を受けていましたが、今回はさらに厳しい基準による審査を受けて認定されました。

さらに「最高の病院」を目指す

005年10月です。同機構から7人の調査員が訪れ、3日間にわたる書類による審査と診療、看護と事務担当者への面接調査が行われました。さらに、外来棟、病棟や薬剤部、臨床検査部門など全部門を視察し、183項目について評価されました。今回審査のポイントはこの医療に最も必要とされる、患者さまが自分自身の判断で治療方針を決める自己決定権をどれだけサポートしているかという



評価基準達成の認定証



医師、看護師、薬剤師が集まって、患者さま一人一人について治療方針を検討するカンファレンス

高かったのは、多職種による患者さまの病気にあわせての検討会(カンファレンス)でした。

また、患者さまに病状や治療方針を説明し、納得していただくうえで、治療方針を患者さまに決めていただくインフォームド・コンセントについても形式が標準化され、看護師が同席することも評価されました。

阪大病院では5年前に認定を受けてから、患者さま中心の医療を実現するために、病院の理念と基本方針をわかりやすく改訂し、「患者の権利」も明記しました。また、医療の安全と質に関しては中央クオリティマネジメント部を中心に充実を図ってきました。

審査を終えた講評の中で、もっとも評価が高かったのは、多職種による患者さまの病気にあわせての検討会(カンファレンス)でした。

診療・教育・研究の推進を目指して

経営改善策を検討

国立大学が法人化され、医学部附属病院に経営の改善が求められています。阪大病院でも病院経営企画室を設置するとともに、外部の病院経営コンサルタントから病院経営の分析や経営改善プランの提案を受け、安全で

良質な医療を提供するための経営改善策を検討しています。阪大病院ではこれまでの経営改善策として、糖尿病ケア外来を開設したり、眼科の外来診療ブースを増やし、眼科の外来日帰り手術ができるようにし

たりしてきました。また、入院患者さまの在院日数が適切になるように努めてまいりました。

これからの改善策として、外来や入院患者さまが増えることが期待されます。また、病院経営の適正化にも努めています。

これからは、診療、教育、研究の3本柱が成り立つような経営改善策が求められています。

現在の治療に納得できなかつたり、不安を感じたりしておられる患者さまは、阪大病院でセカンドオピニオンを受けてみてはいかがでしょうか。

てきました。患者さまがいくつもの科にわたって診察を受けておられても、一つのカルテとして管理されている点も高い評価を得ました。

また、患者さまに病状や治療方針を説明し、納得していただくうえで、治療方針を患者さまに決めていただくインフォームド・コンセントについても形式が標準化され、看護師が同席することも評価されました。

阪大病院では5年前に認定を受けてから、患者さま中心の医療を実現するために、病院の理念と基本方針をわかりやすく改訂し、「患者の権利」も明記しました。また、医療の安全と質に関しては中央クオリティマネジメント部を中心に充実を図ってきました。

審査を終えた講評の中で、もっとも評価が高かったのは、多職種による患者さまの病気にあわせての検討会(カンファレンス)でした。

また、看護師自身の看護の能力をアップしたり、他医療機関の看護師の研修を行ったりする看護部キャリアアップセンターの取り組みも注目されました。

プライバシー保護、リアフリー充実、プライバシーの保護については、採血室の間仕切り、患者さまの名前をアナウンスしないなどが評価されました。トイレや浴室のバリアフリー、患者図書室や患者さまのためのコンサート開催など、2次元面においても高い評価をいただきました。

しかし、紹介患者さまの受け入れ体制や情報の用紙に患者さまの病歴や診断結果、治療方針などを書き込みます。また、患者さまがセカンドオピニオンを聞きたい専門医を指定することもできます。

さらに、事前に検査値や画像診断データなど診療資料を送っておけば、指名された医師だけでなく、関係すると思われる複数の診療科でも検討しておくこともできます。

他病院で納得できなかった時

セカンドオピニオン外来へ

各料の専門医が治療方針で意見

病気の治療方針などについて、主治医とは違う医師に意見を聞く「セカンドオピニオン」が一般的になってきています。阪大病院では2005年10月から、各料の専門医の意見を聞ける「セカンドオピニオン」外来を開設しました。

病気にさまざまな治療法があり、それぞれの医療機関で、患者さまに主治医が説明しています。しかし、主治医の説明に納得がいかなかったり、治療を

していてもなかなかよくなるなかつたりしたときに、患者さまが納得のできる治療法を選ばうため、他の医療機関で専門医の意見を聞くことがセカンドオピニオンです。

特にながでは手術でできるか、できないかは医療機関によつて違うこともあります。また、新しい治療法を開発している医師もいます。難治性の病気に関して、違う治療法があるのでは、と考える患者さまもおられます。

阪大病院にもこれまで、セカンドオピニオンが聞きたいと、紹介されて来られる患者さまがあられました。しかし、初診扱いのため、検査などを一からやり直し、時間も長く、これだけの十分な対応ができませんでした。

開設されたセカンドオピニオン外来は、主治医から阪大病院地域医療ネットワーク部に申し込むことになりました。主治医は所定

とつては診療とともに医学生、研修医の教育や新しい治療法の開発、病気の原因究明などの臨床研究を進めることも大切な役目です。

これまでもがんの治療を中心に50人ほどの患者さまがセカンドオピニオンを聞きに来られました。保険が適用されないので、自費診療となり1回3万円となつています。

炭疽菌テロ想定し除染訓練

阪大病院では、2005年11月11日に、炭疽菌によるテロがあり、感染の疑いのある患者が出たとの想定で、さらなる感染を防ぐための細菌による汚染を除去する除染訓練を行いました。

高度救命救急センターの医師で構成される特殊災害医療チーム（SCAT）を中心に約20人が参加。高度救命救急センター前ピロティに室内への汚染を避けるためのエアードーム型の除染ボックスとクリーンボックスを組み立てました。医師2人が防護服、防毒マスクを着用し、炭疽菌感染の疑いのある軽症と中症度模擬患者を除染ボックス内に運び込み、温水シャワーにより、除染しました。



4年前にも生物化学兵器によるテロを想定した訓練を行いました。今回参加した職員はほとんどが初めての経験。外部の指導員の説明に従い真剣に取り組みましたが、準備作業や後かたづけに時間がかかりました。災害時の拠点病院として、もしものときに適切な対応ができるようにしておく重要性を、改めて認識することができました。

開かれた病院へ見学会

阪大病院を一般の人にもよく知っていただき、意見を聞き、よりよい病院にしようと、2005年9月30日に病院見学会を行いました。

参加者は、外来や病棟はもちろん、いつもは見るのことができない病歴管理室や薬剤部などを見学しました。また、最先端の医療機器などの紹介もありました。参加者からは、患者さまの動線の改善や、地域の基幹病院としての役割を期待する意見があり、見学会を今後も続けてほしいとの要望も出されました。

これからも見学会を行い、地域に開かれた病院としていきたいと考えています。

秋とXマスのコンサート



患者さまの入院生活をより潤いあるものにするために七夕コンサートとクリスマスコンサートに加え、今年度から春と秋にもミニコンサートを開くようになりました。

秋のミニコンサート=写真左=は、2005年11月4日に「日ヶ丘ギター・マンドリンアンサンブル」の15人が「ドラえもんうた」や「浜辺の歌」などを演奏。患者さまも一緒に歌ったの合唱となり、大いに盛り上がりました。

12月22日は積雪の中、まさしくホワイトクリスマスで、コンサート=写真右=では、小児科・小児外科病棟などに入院している院内学級の児童・生徒さんの力強い演奏に、会場から大きな拍手が起こっていました。女声コーラス「友」によるクリスマスソングの合唱もあり、クリスマスらしい夕べとなりました。コンサートに先立ち、高野紀久子氏から寄贈されたピアノが披露され、ピアニストの水野安子氏によるショパンのピアノ曲が演奏され、コンサートに花を添えました。

当日は、多忙を極める宮原秀夫大阪大学総長も観覧され、患者さまとともに憩いのひとときを過ごされました。

図書コーナー、ご利用を

入院中の患者さまが病気について調べたり、小説を読んだりできる図書コーナーをこのほど3階階段ホールに開設しました。

図書コーナーには一般向けの医学書はもちろん、小説など約1,000冊あります。病院ボランティアの協力により、月、水、金の13時から15時まで開室しています。患者さまの憩いの場として、気軽にご利用ください。

今後、毎日開室するためにボランティアの募集をしています。また、蔵書も増やしていきたいと考えておりますので、本の寄贈も歓迎いたします。

ベトナムの医師が病院見学

ベトナム保健省研修科学局専門官のTRAN Duc Thuan医師（37歳）が2005年10月14日、阪大病院の見学と卒後臨床研修制度の視察に来られました。

国際協力機構（JICA）が政府の技術協力計画に基づき、開発途上国の経済・社会開発に必要な人材を養成する事業の一環で、阪大病院が受け入れ先となったものです。TRAN医師は荻原俊男病院長から病院の概要を聞いたあと、笠原彰紀・卒後臨床研修センター副センター長の案内で、日本における医師臨床研修制度などの説明を受けました。

慢性的な不定愁訴 多岐にわたる病因 すっきりよくなる症状……

阪大病院では、医療機関で一般的な治療を受けているのによくなる患者さまや、原因がよくわからない体調不良の人たちを東洋医学の知識や手法も使った治療する漢方外来を2005年12月1日から開設しました。

現代医学を踏まえ 東洋医学も生かす

予約制、じっくり話を聴き治療

ありませぬ。現代医学の成果を踏まえて、伝統的な東洋医学の考えも生かして治療していくのです。



漢方外来で診察する西田 慎二助教授

漢方外来を開設

足が痛いとかしびれといった整形外科が担当する症状や、月経困難症や更年期障害など婦人科領域の病気。アトピー性皮膚炎や関節リウマチなどのアレルギーや自己免疫疾患。さらに、冷え性や汗かき、

肥満などの体質によると考えられる病気などが対象となります。これらの病気や症状には現代医学でも治療法が確立されつつありますが、いつまでも症状がとれなかったり、すっきりとよくなるのが得意とするのはそのような病気や症状です。

また、最近多くなってきたのは、がんの手術後の体調不良を改善したり、体力回復のサポートを行ったりすることです。

漢方外来は、すべて予約制で、毎週月、木曜日の午後です。阪大病院からの患者さまは主治医の紹介、他の医療機関からの場合は地域医療ネットワーク部を通して予約していただくこととなります。

初診には1時間程度かけます。患者さまのそれまでの検査データや服用されている薬などを調べ、患者さまの話をじっくりと聴きます。そして、東洋医学独特の触診である、腹診、脈診、舌診を行い、症状に合った生薬エキスを処方したり、漢方独自の治療を行ったりします。西田助教授は「治療を受けているのになかなかよくなる、という患者さまは、ぜひ受診してみてください。」と話しています。



自動洗浄、消毒されるベッドやマットレス

ベッド洗浄、消毒や多様な医療材料管理

気持よい診療、入院のため サプライセンター 阪大病院のサプライセンターは、患者さまの診療や療養生活に不可欠な包帯や検尿用のコップなど多様な医療材料とベッドを適正に管理、常に不足しないよう各科外来や病棟などに供給している部門です。

内視鏡手術トレーニング講習会

技術向上へ定期開催

“患者さまに優しい”手術として、内視鏡手術は爆発的に広まっています。小さな手術痕で社会復帰が早いことなどが利点ですが、外科医にとっては特殊な技術を要求されるストレスの多い手術であることも事実です。

阪大病院では、これまでも安全で質の高い内視鏡手術ができるように、院内にトレーニングセンターを設けていました。

このほど、内視鏡手術を行っていただくすべての診療科と医療の質と安全の向上を目指す中



初期臨床研修医10人が参加した第1回の内視鏡手術トレーニング講習会

の大橋秀一先生を講師に招いて初期臨床研修医10人が実際の手術で使用する器具を使い、専門医からアドバイスを受けながら、トレーニングを行いました。

受講者には荻原病院長から修了証が交付されました。

将来的には近隣病院の医師のトレーニングにも役立つようしていきたいと考えています。

ホスピタルミニニュース